

令和6年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワークシンポジウム

《 来賓挨拶 》



国土交通省港湾局 中川 研造 産業港湾課長

皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました国土交通省港湾局産業港湾課長の中川です。まずは、能登半島地震及びこの度の能登半島豪雨におかれまして犠牲になられた方々のご冥福を深くお祈りするとともに、被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。

本日は、日本海にぎわい・交流海道ネットワークのシンポジウムのご盛会、心よりお祝いを申し上げます。また、射水市の夏野市長、浜田市久保田市長、糸魚川市米田市長をはじめとする会員の皆様におかれましては、日頃より港湾行政にご理解、ご支援賜りまして、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

さて、日本海にぎわい・交流海道ネットワークは、平成7年の設立から長きにわたって、港湾を核とした日本海沿岸地域の連携や交流の拡大に取り組んでこられました。東日本大震災以降は、大規模地震等の災害に備えたりダンダンシー機能の向上を図ることについても活動に加えられたところがございます。また、能登半島地震を受け、新たに能登半島に所在する会員自治体を対象とした復興活動支援制度を設けるなど、非常に多岐にわたる役割を果たしているという風に認識をしております。さらに、本ネットワークでは、毎年、港を中心とした地域振興の新しい取り組みに対して助成を行っており、その活動を会員間で共有することで日本海側全体の賑わい創出に活かすという取り組みが行われていると承知しております。本シンポジウムや、またその後の交流会などを通じて顔が見える関係を築きながら、今後の日本海側の相互の地域振興が行えるよう情報交換されること

は大変貴重な機会であると思います。私どもにおきましても、この地域振興について様々な取り組みを行ってございます。例えば、みなとオアシス、この近くにも海王丸パークがございますけれども、これがそれぞれの活性化を図ることはもちろんですが、約30個ある日本海側のみなとオアシスが相互に交流することによってさらに地域全体が活性化していくといった取り組みを今後進めていきたいと思っております。またクルーズについても、もうすでに寄港する港湾の数につきましてはコロナ前を超えるというようなことになってございます。これも日本海側の港湾への寄港をさらに促進するというのも取り組んでまいりたいと思っております。このみなとオアシスやクルーズ、これらを促進することでさらに会員の皆様の港湾が活性化することを目指して私ども取り組んでまいりたいと考えてございます。

最後になりましたが、シンポジウムの開催にあたり開催地自治体としてご尽力いただきました夏野市長をはじめ関係者の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、ご参加の皆様のご健勝と日本海にぎわい・交流海道ネットワークのますますの発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。